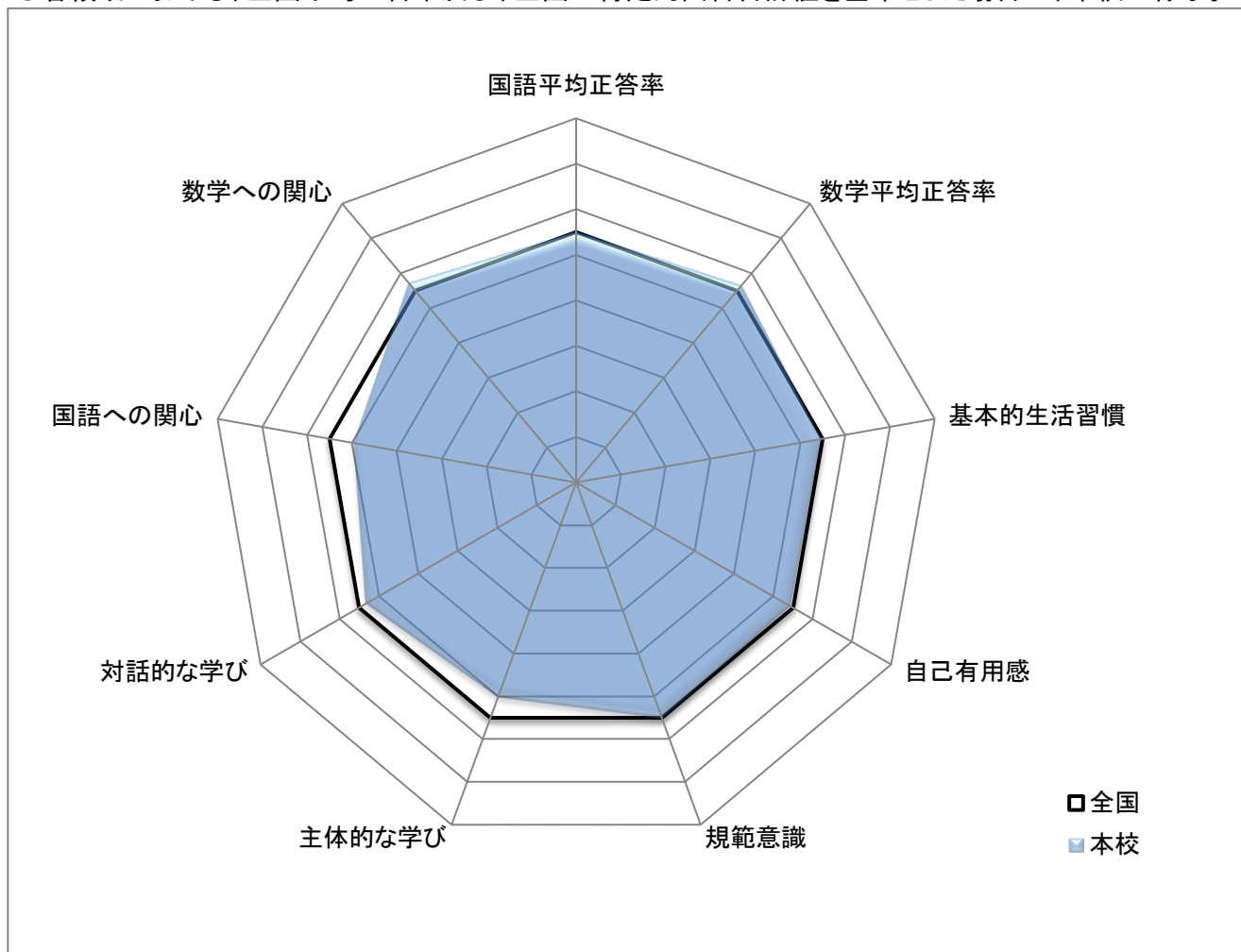


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

基本的な生活習慣・自己有用感・規範意識など日常生活において大切なことは、全国と比べてほぼ横ばいなものが多い。集団生活や学校行事の向上を目標にして、課題を明確にし、生徒が主体性をもって、取り組める教育活動を目指していく。

主体的・対話的な学びや国語・数学の平均正答率、関心については、数学の平均正答率や関心は全国を上回っていたが、それ以外は下回っていた。学習に向かう態度や習慣、家庭学習の方法、学力の向上が喫緊の課題である。

《授業改善のポイント》

- ・ 探究的な学習を見据えた授業展開への転換
- ・ 授業の最後5分間を振り返りの時間に設定
- ・ ICTを有効活用し、視覚的に認知し易い授業を展開。学力向上につながる効果的な活用方法の実践。
- ・ 定期考査後に授業の内容が理解できているかをノート、振り返りシート等にて必ず確認し、新たな目標を設定させる。
- ・ 授業中に全員が自信をもって答えられる問いを立て、自己肯定感を高める。
- ・ 生徒授業評価において、全項目90%以上の満足度を得られるよう、生徒が主体的に学習に取り組める活動を、研究していく。

《チャートの特徴》

本校の生徒は学校行事に主体的に取り組み、時代に合った実施方法を工夫しながら考え、より発展的なものにしていく、前向きな気持ちが個々や集団に感じられる。そのため、自己有用感や、健全な学校生活が送れているという観点から、基本的な生活習慣にも反映されている。

学習面においては、国語、数学への関心と平均正答率が関連付いていて、関心が全国より低い教科は、平均正答率も低く、関心が全国より高い教科は平均正答率も高くなっている。

《家庭・地域への働きかけ》

学校だより・保護者会・三者面談等で、現状の学力や学習状況の課題を説明していく。学力の定着には家庭での協力が必要であり、よりよい学習方法について、子どもと話題にさせていただく。また問題点や課題を共有し、特に家庭学習の習慣化を働きかける。